

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和7年3月28日				
環境・体制整備	チェック項目		(はい)	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	28	17	各部屋での導線や、合理的配慮が取れていると思います。活動に応じてプレイルームを利用しています。トイレなど、なるべく使用時間が重ならない様にしているが、親子、2歳児、年少クラスが1箇所のトイレを使用するので、混雑する事と、玄関横にトイレがある為、来客がある場合児童がオムツ、下着等を着けていない姿が見える事など、気になる事が有る。広すぎない程度の部屋の中で仕切りとなるものを使用しながら遊び場や活動場所を作っている。雨天時に活動するスペースが少ない。毎日通園との兼ね合いて時間で部屋を移動している為、見学者含め人数が多い日には場所によっては狭さを感じる。収納棚を作っている。場所が根本的に狭い。棚やいらないものは極力置かず、少しでも広い空間をつくっている。天候や活動によって外遊びや室内遊具を行っています。特に外遊びができない日は時間を決めきんの部屋などで対応しているが、どのクラスも使いたいのでもう一部屋あるよと思います。とくに活動的で他害のおきやすいクラスでは、子どもたちがあそぶ際の設定としては、静と動を意識して環境設定をしました。こどもの数に対して部屋の数が少ないように感じる。はなののお部屋、棚が無いため物が置くスペース少なく散らかってしまう。ばなな→広く使えるように、できるだけ物を置かないように意識している。みどりG→一番人数が多く休が大きいのに、一番狭い部屋を使用している。遊び場所と生活支援の場所を区別。各部署との連携で施設の活動場所のやりくりをしているが、面談に使用する部屋が不足している。親子教室と毎日通園で部屋がバッチングする。	施設の老朽化や、活動のバリエーションに拡充により、環境的な制限が必要な場面も多いのが現状です。現在、皆で工夫しながら、使用教室の申請や調整の中で、活動を実施しています。限定された環境の中ではありますが、計画的にまた、他の公共施設等の活用も含め、学園全体での計画的な活用ができるよう知恵を出し合い、対応してゆきます。必要な改修等は、浜松市への要望として伝え、検討協議してゆきます。老朽化している施設をより良い形で活用できるよう、環境整備の実施による、小さな段階からの不備の発見と対応。早期発見と対応の意識を職員一同がもって、対応してゆきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	30	15	お話会の時など、補助職員を配置しています。動きの多い子、他害がある児童にはどうしても職員が側に付く事が必要となり、その場合、他が手薄になると感じる。職員の数により、厳しい体制のときがある。子供の出席状況や活動内容などによっての職員の配置は考えられている。毎日、グループの職員体制を心配してしまう。リーダー、サブ、サブサブなど役割はまわっているもののリーダーとサブが休むとその時は現場は困難が生じる。また扶養で働いている人が多い為、仕事の偏りが人によって生じている。人数が必要な療育プログラムの時は応援を頼む。応援職員を各グループの状況に応じて配置している。個別対応が必要な子どもが多い場合は職員数が少ないと感じることがある。何もない時は良いが、別室で個別対応をとらないといけない時などは人手不足を感じる。どのグループにもフリーの職員がいると良いが、どうしても難しい時は事務所の職員に協力してもらい、回している。活動の職員人数はよいと思います。今後、親子分離活動が始まることと、新規のお子さんも増えるので職員人数が増えると望ましいです。ほとんどは適切だと思えますが、子どもたちのその日の様子によってもう一人職員がいるほうが、安全な場合があると思えます。朝の受け入れの時に子どもの様子によっては充分な対応ができない時があります。散歩等で園外に出る際に子ども達を把握する時が大変な時がある。ばなな→適切に配置されていると思う。みどりG→もう一人ずつ必要だと応援に入った際に感じた。過剰であると感じる場合もある。大人が多いことで視線も高くなりやすく狭さも感じるため、見極めが必要。足りてはいますが正規の体制が整えたいと思ってます。	職員体制的には国基準より加配した体制になっています。正規職員と非正規との役割分担や、効率的な活用となっているかの検討を行い、加配の体制が十分機能するよう取り組んでいきます。こどもの状況による個別対応の活用は重要です。どんな状況の時を個別対応と判断するのか、どんな状況が個別対応の必要性が高まるのかなどの分析と、職員の安定した配置を、皆で工夫しながら取り組んでいきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	23	22	子どもたちが分かりやすいように環境を整えてはいるが、設備としてバリアフリーになっていない所がある。トイレが暗かったり、スロープのない玄関がある。スロープが付いていたりするが本当の意味のバリアフリーとは言えない。トイレの数が少なかったり、西棟通路に出る際に段差があり転倒リスクがある。絵カードなどで伝わり易くなっていると思う。古くなったものを新しく作る時間がなく後回しにしてしまう。段差が多く、西棟の通路の扉は手を挟む危険がある。南棟のプレイグラウンド、砂場よし。冬期に紅葉する。イチヨウ。南棟から西棟への通路が外（コンクリート）を歩くため、未歩行児には困難。平屋のため、階段がなくフラットである。部屋から外に出る時に段差があるが、すのこなどで工夫している。	施設の老朽化は否めない。その都度修繕・改修してきているが100%改善されるには至っていない。 ①市への要望と、協議の実施を継続していく ②子どもにとって良い環境とは何かを考え、職員でできる事を、知恵出し合いながら試行錯誤して取り組んでいく どんなことができるかを、ねあいチームとして、コミュニケーションとりながら、知恵出し合って改善していきましょう。

業務改善	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	31	16	見学の方等から50年たつ建物とは思えないと言っていました。毎日通園終了後、子じかグループが始まる前のわずかな時間に担当職員と協力して掃除、整えを行います。トイレの換気の悪さや臭い。トイレが衛生的にもプライバシー的にも改善したほうが良いと思う。サーキュレーターを回してはいるが余り改善されているとは思えない。老朽化してるため、安全や清潔が保てない部分がある。基礎がなっていないためあらゆる工夫をしたとしても限度があり無理がある。窓を開けると、虫が入ってくるときがある。害虫などの発生や糞などがあることが気になる。トイレが古く匂いもする。始業前の点検や子供達の降園後のお部屋の片付けや、おもちゃの消毒をしている。物が多いため隅々等に荷物が置かれている。収納棚など欲しいが、空間が狭まるため検討中。各グループごと、自由に使える部屋があると良いと思う(特に雨の日)。トイレや建具、照明、手洗い場などの設備が古い。できるだけ清掃や環境整備もしていますが、手の届かない所などは定期的に業者などが入るとよいと思います。お掃除はしっかりやっているとありますが、洗面所や廊下などのかがが割れ落ちて床に散らばっていることがあって子どもたちが口にいれそうで心配です。壁がはがれている部分がある。古いなりに劣化している箇所の対応をしていけるとよいと思う。ウゴン通る所の屋根があると良いと思います 雨の時とか大変です。マットや排水溝の金網、鏡、ロッカー廊下なども普段の清掃の一つとして行ない、長期休暇前にはカーテンも洗うようにしている。また、換気はもちろんのこと、クーラー使用時には冷えすぎないことも意識して行なっている。見直しは必要 手洗い場 ロッカーなど。施設の老朽化が顕著である。	清潔さ・心地よさの視点を常を持って、環境へのチェックと対応を、いろいろな形で行っていきましょう。 ①こどもにとって楽しく・多様な活動ができる空間であるか？ ②職員も怪我無く安全な環境になっているか？ の確認・視点をもって毎日の始業点検、月2回の環境整備で実施してゆきます。 老朽化への対応については、市と協議を継続して検討を行います。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	27	20	気持ちが崩れる子には、きりんの部屋で気持ちの切り替えを行っています。はい。と答えましたが、部屋が空いていれ児童がクールダウンする為に使えする事もある。その様な専用の部屋があったら良いと思う。広い部屋でなくてもいいから落ち着ける場所を創ってほしい。体調を崩した時など個別に使用できる空間がないのが困る。部屋の数が不足している。体調不良でお迎えになったお子さんを個別で対応出来るお部屋が少ないので、男子更衣室や和室等を使用している。余っている部屋がないため、消音BOXで個人スペースを確保している。空き部屋がなく難しい時がある。同室で区切るなどの工夫はしていますが、個室などの配慮はできていません。発熱した時や怪我したときなどの専用の空間があると良い。専用の部屋が確保できるとより良いと思う。男子休憩室や和室を使っているようなので、専用の部屋が欲しい。対応はできていると思うが 専用の部屋があると良いと思います。個別で園内で気分転換できるように対応を心がけている。朝の自由遊びなどで他の場所でも遊べる環境があればと感じる。廊下で遊ぶなど。雨の日等、教室内で過ごすのが難しい時にきりんの部屋で身体を動かせる環境がある。個別でスペースを使用することは認められているが、その環境が完全ではない。例えば、室内ではカーテンを使用→外が見えるし外からも見える。他児が覗ける環境。廊下→視覚的に広がった環境になる。他児が話しかけることができる。大きな声を出したり、激しく泣くときは、いったん部屋から出て散歩などで落ち着けるように聞かせる。体調不良や気持ちの波により別室での対応をしたために部屋がない。吸音ボックスなど適時活用している。	こどもが落ち着ける部屋、個別に使用できる部屋の不足は現状として認識しています。 各部屋での吸音BOXやコーナーなど、工夫できることでの対応の継続と、放送室の活用など、柔軟な思考と自由な発想で、学園全体の環境を具体的に考えて皆で工夫していきましょう。 職員の感じている意見を自由に発言できる場も大事にしてゆきます。
	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	38	7	毎日行っています。しかし、振り返り後の改善点についてや次の準備など時間が足りないことがあります。全員が参画できてはいないと思うが、生活の記録など職員全体で読み返すように工夫している。参加できていない。ベトナムの方々があるため、朝等の時間を活用し、話す機会を作っている。月案等を活用できている。職員で課題や対応策を話し合うようにしています。目標設定は行っても評価、改善の流れが不十分と感じる。デイリーに、その日の活動の項目のしたに【ねらい】の欄ができ分り易くなった。上層部で決定されて降りてくることが多いので、全体の意見を把握する機会があるといので、行事計画や療育プログラムを立て、ねらいなどを明確にしている。また、それに対する振り返りを必ず行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	35	0	意見をいただき、すぐに改善できるところと毎年改善点として残っているとところがある。面談や送迎時で学園の様子や家庭での様子を共有する。紙面でもらえるため、ゆっくりと読み込むことができています。打ち込みなど大変かもしれないが、継続してほしい。保護者へのアンケートで改善できる点は取り組んでいる。ハード面の改善は難しい。やれている部分と自分達ではどうにも出来ない部分があります。	具体的な意見の一覧表を作成し、現状と改善が確認できるフォーマットを作成し、より見える化に取り組みます。 その中から、自分たちでできる部分とできない部分も明確にし、対応を具体的に考え進めて行きます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	39	6	子じか会議で話し合いの場を設けました。そういう場に直接関わっていない。グループ内では話し合いをしながら進められているが、実際に他の部署の職員とはそこまでできていない。個別面談を設けている。しかし、年1回ではなく、半期に1回は行えると思う。意見が改善に反映されているかは?職員会議等のグループワークで話す機会が設けられている。打ち合せや振り返り、G会議だけでなく、思いついたことなどはすぐに聞いてもらえる。疑問喝鬼。職員会議などを利用して意見をだし合う機会を設けてもよいと思う。	各グループ・部門等の会議は実施されている。各部門の意見を丁寧に集約し、組織として対応できる仕組みの再構築は今後より必要と考えています。職員の意見をどのように集めているかの現状の把握とその集約・改善へのシステムを明確にしてゆきます。また、個別面談等活用し、意見を運動しながら、職員の意見が業務の改善に活かされる取り組みに力を入れていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	35	7	わかりません。第三者委員会でのご意見、ご指摘を全体に周知し、改善に努めている。直接受ける機会がない。第三者委員会があることは知っていますが、具体的にどのように関わっていただいているのかわかりません。今後の検討課題。	職員全体の理解と周知を実施し、職員全体の意向として第3者による外部評価の受審を決定してゆく。 ①第3者による外部評価の理解 ②職員一人一人の意向の確認 検討してゆく。

適切な支援の提供	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	45	0	<p>桐生先生の研修や子つじ学園との合同研修など行っており。自分は関わっていないが、他職員の方はされていると思う。学園内で研修が行なわれ参加しやすい。研修を受け、報告書を書くことで改めて気付く、知る機会になる。受けてきた研修を現場に効率的におろしていけると良い。法人内でもそうだが、他施設との合同研修もある。子どもたちの命に関わるアレルギーや救命法は、皆が参加できる時間に設定してくれるので良いと思う。自分で選択して受講できる今のシステムは良いと思う。子どもの権利や尊厳が守られるように関わろうと意識している。職員が参加しやすいよう時間や報告書の見直しを行った。どの職員も一年に一度は研修を受けられるようにして行きたい。研修は充実していると思う。</p>	<p>①現状の研修を再度、再評価していく ②職員一人一人が受けたい研修の意向確認 ③福祉職・ケアを提供する人材として最低限共有したい研修</p> <p>など、現状の研修の実態把握と評価と、業務状況との兼ね合の中で調整し、計画的に実施してゆく。</p>
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	38	5	<p>朝終礼や会議で周知をしています。個々の担当職員が決められ、作成している。色々な部署からの意見を出し合いながら検討し支援を行っている。必要に応じてケース会議を開催している。部下の意見が出やすいよう、話し合いの際は明るい空気をつくっている。日々の振り替えりやおひさま報告会の中で支援や育ちについて共有する時間を大切にしている。保護者との面談では、必ず児童発達責任者と担任職員で行なっている。</p>	<p>現状では、新しく制度化された現時点では、これまでの支援や活動プログラムとの照らし合わせが今後も必要。支援プログラムを令和6年度に公表することができた。</p>
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	41	1	<p>グループ職員間で意見し合っている。職員の考えだけでなく保護者の意見を確認しながら支援している。公表しているか、分かりません。作成はしているが公表していない。グループ間でその子のプログラムを作成するにあたって情報を共有している。打ち合わせて話し合い決めているため、子ども一人一人に寄り添ったプログラムが立てられていると思う。また、様子を生活記録のコメント欄やGだよりで写真付きでお伝えしている。お子さんそれぞれの目標を意識して関わろうとしている。令和7年度に向けてどのように公表するか検討必要 保護者が見ているか。</p>	<p>こどもの発達を理解していることと、日々のこどもの観察が必要である。基本的な知識の共有と、ケース会議等の中で、具体的な事例を通して、自分は何をもってどう意味づけたのかを言葉にして語り、考えていくことが今後も求められていく。計画的に研修を行い、職員皆が、実践を重ねる中で、気づき、技術やスキル・理解を深めていく。</p>
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	42	1	<p>共通認識のもと、個に関わって療育を進めています。日々の中で確認しながら支援に繋がっている。日々の行動記録の用紙に個々の今期のねらいが記載されている。グループ内でカンファレンスを行い不足しているところなどはお互いに意見を出し合いながら支援している。毎日目を通す、行動の記録に支援計画の要点を記し、毎日意識しやすくしている。面談前の報告会だけでなく、日々の記録する用紙に目標が記載されているため、常に共有・確認できるようになっている。</p>	<p>チームで支援にあたる視点を大事に取り組んでいく。日々実施されている事を、俯瞰的な視点と、そのこどもにとってどうかのミクロな視点とを共有する場を創っていく。</p>
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	42	3	<p>様々な機関と連携してアセスメントをしています。毎日記載している。活動の終わりに決まったツールの物を用いて振り返りを行っている。また自分だけでは判断しかねる時には他者の意見を聞いている。クラス担任の中で療育後に子ども達の様子について振り返りを行っている。また、自分だけでは判断しかねる時には他者の意見を聞いている。毎日記録している。わかりません。</p>	<p>発達検査との連動・家族アセスメントを踏まえた支援計画は今後の課題である。 家族とのコミュニケーション関係の中で、家族の本音や見えないものを含め気づける技術の獲得にも意識しながら支援を進めて行く。</p>
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	41	1	<p>様々な機関と連携してアセスメントをしています。太田やキッズを行っているが生かされているか？家族のアセスメントが取れていないと感じる。クラス担任で療育後に子ども達の様子について話している。活動の終わりに決まったツールの物を用いて行っている。また、自分だけでは判断しかねる時には他者の意見を聞いている。毎日記録している。わかりません。</p>	<p>様々な発達検査等と日々のこどもの姿、アセスメントしながら子どもが育つ環境を作っていける力が、支援者には求められている。一つひとつの実践を通し、児発管の指導助言や、スーパーバイズを活用しながら、日常的に行われるようシステムや日常化となる仕組みづくりに取り組んでいく。</p>
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	38	4	<p>担当で協力して作成しています。グループ職員に意見を求める場を設けている。叩き台のプログラムなどは出すが、そこから現状の子ども、保護者の様子を見て皆で見直しを行っている。ベストプラクティスだけではなく、他の職員からも意見を取り入れるようにしている。月案を立てる時点で、おおまかにどのようなことをやりたいか、意見を出し合っている。グループで話し合ったり、クラスだけでなくグループ内でグルーピングをしたり話し合っで立てることができている。からだのプログラムはOTさんの指示のもとできている。事前にリーダが大師を考えてくれていて、サブに相談、意見を取り入れてくれることが多い。プログラムに対し個別に支援されているかは確認が必要、立案して内容を確認している。</p>	<p>現状把握と現状の中でその効果やその取り組みの評価を行っていくことが課題である。 現状の良い点・改善点を、職員で共有し、今後の取り組みへのヒントや方法を明確にし、取り組んでいく仕組み（やり方）が必要。 この点をテーマに学園として取り組んでいく。</p>
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	39	5	<p>自分自身、不勉強なところがあったと思います。今後改善していきたいと思います。サービス担当者で話し合う機会がある。地域支援、連携の部分が人によって偏ってしまっている。より具体的に作成していけると良い。専門職の知識を活用しながら支援内容を設定している。それぞれ項目に分かれていて見易い。ケースを担当していないためその業務は行ってはいけません。</p>	<p>制度の変更点・ガイドラインの理解を深めるための研修と、具体的な自己点検とそこから生まれる改善点を次の実践に活かしていく。そのためにも、計画的な研修や、場づくりを行っていく。</p>
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	43	1	<p>様々な活動を取り入れ課題にあったプログラムを計画しています。リーダーが子供達のために考えてくれている。季節を取り入れている。大枠の年間予定はあるものの、課題に対しての支援などはみんなで見直ししながらすすめている。他のクラスの活動を参考にしている時もある。子どもたちがより楽しめるような、意欲や見直しを持てるような内容を考えて提供できるようにしています。季節や子どもたちの発達、ねらいに応じて立案するようにしている。同じ活動でも動画を使う機会を設けたりしている。同じプログラムでも、前回の振り返りを生かして計画を立てている。朝の設定や絵本は、一週間ほどで変えるようにしている。立案はやっていないです。クラス職員と話し、変更している。</p>	<p>活動プログラム後の振り返りは丁寧に行われています。子どもひとり一人にとってどうなのか視点をもって、こどもの観察・発達の状況・特性を加味し、多様な活動プログラムを意識した、支援を行っていきます。</p>

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	38	5	わかりません。職員の余裕がなく、難しいこともある。自分たちなりに工夫して、どのやり方であれば集団活動に参加できるかなど完璧にはできていないが取り組んではいる。造形やからだあそび等、人数を減らしたりグルーピングしたりしている。個別でできるようになったものを集団で、集団で苦手だったものは個別で経験できるよう工夫されている。集団での活動が多いと感じる。個別支援について考えて行くこと必要。個別活動はまだまだ充実していないと感じる。	個別と集団は、個人の力そのものが発揮できる環境として個別の状況を把握しておくことは必要である。一方、この力を集団の中でどのように発揮できるかは、集団性・社会性の育ちの視点から把握していくことが必要である。個と集団の両方の発達や力の発揮のバランスを捉えながら活動できる環境をつくっていくことが今後さらに求められています。個別と集団でのこどもの姿を観察し捉えた中での支援や活動プログラムが行われるよう取り組んでいます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	48		協力して行うことができました。配慮すべきことを取り上げて事故や怪我、トラブルに繋がらないようにしている。記録することで、出勤が遅い職員も確認出来るようにしている。前回の振り返りを活動前に確認し、それぞれ誰に声掛けをするかなど共有している。必ず打ち合わせを行っている。また、書面にも詳しく残し、その場にいなかった職員にも見て分かりやすくしておく。バスや面談等にて、打ち合わせが不足してしまう場面はありました。クラスごとになり打ち合わせ振り返りがしやすく声もかけ合いやすい。時間がない時の打ち合わせが疎かになってしまうことがある。療育前の打ち合わせで活動のポイントを確認している。職員が揃っていない状況で話し始めてしまうことで、後から参加した職員に再度説明する必要が出てしまう。特に個別に支援が必要なこどもについて、担当や手順を打ち合わせます。行っているが準備等や出勤時間の違いがあり、難しいこともある。	細やかな打ち合わせが、チーム支援では大事なポイントになっている。現状やれているが、職員がいない場合の工夫や対応については、より深め、多様な方法を考えていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	48	1	バスや面談等にて、打ち合わせが不足してしまう場面はありました。クラスごとになり打ち合わせ振り返りがしやすく声もかけ合いやすい。時間がない時の打ち合わせが疎かになってしまう時がある。療育前の打ち合わせで活動のポイントを確認している。職員が揃っていない状況で話し始めてしまうことで、後から参加した職員に再度説明する必要が出てしまう。行っているが準備等や出勤時間の違いがあり、難しいこともある。登園前の時間で昨日までの子どもの様子と今後に向けた意見交換をしている。クラス単位で行うことで、打ち合わせ時間の調整ができ、職員がそろって参加することができる。	クラスで活動の振り返り、行事の振り返り、職員全体での振り返りを日々実施しています。記録することで、皆で共有することにもつながっています。今後も継続する中で、より具体的な改善や、職員の気づきや支援方法の共有になるよう取り組みます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	48	1	保護者とのやりとりを記入していますが、細かく書き切れない日もありました。今後改善していきたいと思っています色々な見方ができるよう、様々な職員が記録している。。記録を見返す時間を取り入れた。子どもの様子、保護者との会話の記録を行うようにし互いの悩み等を少しでも改善できるように努めている。行動の記録、保護者との会話の記録等、丁寧に記入している。日々記録をとっているが、検証できていない時がある。月末に見返すことが多いため、その際に検証、改善できると良い。その子の支援を考える時には記録を参考している。日々記録をとっているが、検証できていない時がある。	記録は大事な情報であり、職員間の共通理解にも効果的である。対人援助の業務の中では、必須な業務として位置付けていかなければならない。ただ、煩雑な業務のなか限界もある。煩雑な記録業務の効率的な工夫ITの活用も含めて検討していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	37	4	半期に1度見直しを行っています。特にありません。モニタリングは行っていないが、振り返り用紙に記入されている内容を確認し返事などしてやり取りを行なっている。モニタリングの間を個にあわせて検討していけると良い。定期的にモニタリングをしに担当の方が来園されている。質問された際には答えたり、リーダー職員が答えられる環境になるよう努めている。経験がないためわかりません。半期ごとに行なっているが、それで良いかは検討。	制度的には半年に1回が最低求められています。モニタリングは、再検討・再確認としての役割を果たしていくものなので、必要に応じて、こどもの変化に応じて行われていくものであることも理解して進めて行く。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	42		グループ内では行っていない。判断に難しい時は上司に確認し行いました。子どもの担当者が出ている。必ず担任と児発管が出ている。担当職員が参加している。	令和6年度は、制度も変わり、多くの相談支援事業所が来園された。共有場面としての成果はあるが、支援者が対応する回数も多く、子どもの支援体制が難しくなることも懸念されている。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	46	0	支援を必要としているご家庭は特に配慮しました。わかりません。必要な場合連絡をとっている。保護者へ了解をとり連携している。必要に応じて医療紹介や情報共有をしています。担当により差はあるかもしれないが、相談支援事業所等との連携も意識しています。併行先や保護者への情報提供、共有、訪問、報告など、連携を取ろうととても丁寧に対応している。保護者と主治医とのやりとりを伝えていたにいたっている。連携をととり、情報共有や役割分担をしている。	学園として各関係機関との連携は丁寧に行っています。職員体制的に人的不足状況や通常業務への影響も懸念された。結果的に職員の業務が増えることにもつながり、職員体制の確保も課題である。多様な機関との連携は、職員一人一人が、学園以外の視点を持ち、こどもの理解や支援を考えるうえで視野を広げる点においては大事にしてゆきたい。

26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	44	1	園の状況等、訪問した様子でわかるところのみではなく、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等の概要や適応されている法令についての理解を踏まえて支援にあたることは必須と感じる。今年度は、保育所等訪問にいかせていただく機会があり、保育園での様子がよくわかりました。担任の先生方のご意見も伺い、療育にも繋げることができました。訪問に出かけている。保護者、利用機関と同じ内容の文書などで情報共有を行っている。実際に電話や直接会った時に情報共有をしている。必要に応じて行っています。経験がないためわかりません。関係機関連携を通して、併行開始前に幼保へ向き情報共有を行うことでより顔の見える関係になった。移行支援や保育所等訪問は充実していると思う。	併行を考えている段階、併行で悩んでいる段階、併行を決断した段階、併行を実施しているプロセスの中でなど、それぞれの段階により個別の支援のポイントや、個々の状況により個別的な田泓が求められている。 実際に、園の見学や連携していく中で、より、こどもにとってどこが必要であるかが具体的に考えていけるよい点はある。これまでの経験からの工夫や支援方法等、今後も積み重ね、併行することも・家族と共に学びながら進めていきたい。
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	38	3	かけはしシートを持参しての引き継ぎの際、丁寧に子どもたちの様子を伝えていきます。わかりません。書類の作成だけでなく、直接届け情報共有している。サポートかけはしシートや引き継ぎ書を用いて行っている。特別支援学校の見学に参加する機会があった。経験がないためわかりません。対象年齢ではないためしていません。	かけはしシートの作成・学校編お引継ぎと浜松市として仕組みができており、大分定着してきている。全員がこの役割を担う状況ではないが、現状を周知し、体験しながら学ぶ場／機会を創っていくことも職員の周知につながると考える。
28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	34	8	地域の事業所との連携はあまりできていないと感じておりますので、今後改善していきたいと思えます。合同研修をしている。わからない。空き状況等は確認していても質の向上などの取り組みは行っていない。多くはないが、他の施設と情報共有を行う機会が昔より増えた。他の施設に見学に行けるなど、学ぶ機会があったら良い。今後の課題のように思います。他事業所との連携が弱いように感じるため顔の見える関係作りをして行きたい。他事業所との交流や連携は薄いと感じる。地域全体の質の向上のために伝えることはなんだろう？を考えていけると良いのかなと思う。近隣の人も関わるイベントなどはありません。	こどもを通じての連携はあるが、事業所とのつなわりをすべて職員が持てている状況ではない。児童発達支援連絡会等・小羊学園との研修等は実施されているが、多くの職員が参加できるように計画的に進めて行きたい。
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	39	5	具体的にはわかりませんがいろんな研修が行われている。ありません。心理士等に意見を願っています。ことはあるが、研修までは行っていない。専門職から研修を受けたり、外部講師を招いたりしている。わかりません。参加した方が朝終礼で報告してくれるため、朝終礼簿を見ることで、参加していない職員も知ることができます。外部研修の報告を通して、職員全体の知識の向上になっていると思う。	学園内に多くの専門職がありますが、ケースに応じて相談して支援を進めている。多様な専門職との連携や、専門職としての視点の共有は現在十分共有されていない。多くの専門職の視点をそれぞれが共有できることは、多角的な視点から子どもを理解することができるので、今後進めてゆきたい。その方法として・外部研修も含め取り組んでいく。
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	30	10	わかりません。ありません。していない。	組織としては、中区や北区のエリアの自立支援連絡会や市のこども部会等にコメンタリーとして参加している。自立支援協議会が、現場とまどうまく関連付けられていない現状を、ケースを通して、その役割を理解できるように進めて行く。
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	30	13	これからの課題だと思います。他法人との合同研修を行っている。わからない。会議は行っているが必要に応じて通っている子どもも園など連携を取ることがあります。本施設が児童発達支援センターのため行っていない。	児童発達支援センターは、今後、中核機能として、事業所等へのスーパーバイズやコンサルテーションの機能が求められています。人材育成が今後求められています。
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	42	4	三方原幼稚園、親子交流で活動を共にしました。接触に問題があることもありませんが交流は考えられている。幼稚園に個別に行くが、交通手段に困る家庭がある。グループの活動時間では作っていない。幼稚園交流では子どもたちが関わり、ふれあえる機会を多く設けている。他の園との交流はできていません。三方原幼稚園と交流する機会があり、子ども達にとって良い経験になった。交流ができそうな学年が代表で交流していいと思う。幼稚園との交流保育を継続して行なっている。	今後も三方原幼稚園との交流は継続して進めて行きます。また、その他、多様な形での交流ができるよう交流圏を開拓していきます。
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	48	0	生活記録から保護者の思いを受けて気づいたことを伝えている。 連絡帳を活用している。課題や達成できたことなどは積極的に話をするようにしている。保護者からの要望があったとき以外でも、こちらが実施した方がよいと判断した時には保護者と面談を行っている。保護者が来園された時に些細なことでも話しかけるようにしている。面談のみでなく、送迎時等にも共有することを意識しています。バス通園で顔を合わせる機会がないときには電話や生活記録でやりとりができています。送迎時等で保護者の方と話す機会を設けている。生活記録やおたより帳の利用、面談や送迎時に直接お話しする。欠席時等には電話して様子を聞くなどして行っている。 連絡帳や電話、面談などで情報を共有している。登園時とおたよりちょうで努力している。共通理解出来ていない部分もある。 家庭と学園で支障がずれないよう心がけている。	日々のこどもの状況については、保護者へ丁寧に伝えている。様々な機会を大事に捉え、職員が意識的に取り組んでいます。 一方、家庭とのギャップや、保護者が抱えている悩みや心配事、不安等、家族支援として必要な情報をキャッチすることへも今後意識をもって取り組んでいきます。家族支援への支援の充実を図っていきます。

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	40	4	今年度は機会がありませんでした。わからない。 ペアレントプログラムを実施している。情報提供は適時行っているが、パトに関しては未だ未実施であるため早急な対応を検討中。スキップや父親参観でのお話し会はランダムに席を決め、いっしょな人。保護者がどんなことを知りたいかアンケートととりお話し会の内容など検討している。子供が低年齢のうちに受けられるようになっている。入園前のベアトリーや母親教室などでOBの話を聞く機会がある。入園後のベアプロアフターを実施したい。	ワクワクサロン（母親対象）スキップでの懇談、ペアレントプログラムの実施、父親参観会、行事への参加等の取り組みを行っています。 今後母、親が本音を語り、仲間と共に学び合っていける環境を提供してゆきます。
保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	42	2	子じかグループの中で心がけました。全体での説明会に参加出来なかった家庭には、後日改めて説明している。質問が出た時も丁寧に答えるようにしている。新年度ガイダンスで丁寧に全員に伝えられている。日々の支援プログラムについては細かな説明はできていない。面談など直接伝えられる場で伝えている。支援プログラムについてはまだ未完成であり、保護者に周知はしていない。運営規定の話は出来ていない。	令和6年度末には、支援プログラムの第1版が完成した。これを次年度は再度検討しながらより良いものに修正していく。このプロセスを通して、職員一人一人が理解し、皆が保護者に解説・説明できる力をつけていく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	40	1	面談等で保護者の意向を聞く。経験がないためわかりません。親の気持ちを中心 子どもの気持ちをどのように確認して行くか課題。	子ども声の聴き方・保護者の意思の尊重など、これからより深めていかなければならない課題である。おしゃべりの難しい子、本音を語れない保護者など、学園の職員全員が学び身につけていける取り組みを行っていきます。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	29	4	支援計画はありませんが、親子教室の意図やお子さんの課題、対応などをお話しさせてもらっています。提出されても、署名・印が無いものは返却している。経験がないためわかりません。	皆が現在保護者に対して実施しています。より相手に伝わる、理解していただける技術も高めていけることをめざします。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	45	0	今年度は、子じかグループ終了後に要望に応じて面談を行いました。ちょっとした悩みや相談事を確認して助言をしている。必要であれば、臨時の面談を提案している。面談を行った活動時に話したりしてアドバイスまたは情報共有を行っている。決められた面談日以外にも職員と話せることができるということを伝えている。面談日やラインなどを活用しています。園児がバス保育を利用している間に保護者と職員で面談を行うなど、保護者がゆっくり話せる場を設けている。送迎時で話す機会を設けている。送迎時に話をしたり、書面できた場合返事を返している。	学園全体で保護者の声を聴く機会を意識している。電話での相談にも丁寧に対応している。今後も親の声を聴く中で、具体的な対応になるよう、迅速にネットワークよく具体的な対応につなげられる知識と技術を深めていく。ソーシャルワークの視点や、社会資源の情報についても情報できるよう取り組んでいきます。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	41	5	子じかグループでは実現が難しかったです。きょうだい同士は設けられる機会がありません。行事への家族参加も意識して、計画している。兄弟児のフォローはできていないが、意見を求められた際には考えを伝えることもある。保護者に対しては、お話し会などを行っている。きょうだい同士で交流する機会ほとんど無いと感じる。保護者同士でアイスブレイクをし交流を図っている。お話し会を設け他の保護者の方と話せる気を作っています。ファミリーデーでは、兄弟児も楽しめる活動内容を企画した。今年度はきょうだい支援が出来ていない。	きょうだいへの取り組みは学園の課題です。行事の時にきょうだい児用のプログラム活動を入れるなど工夫をし、取り組んでいるが、継続的な支援は今後検討し取り組んで行きます。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	44	1	朝の打ち合わせや振り返りでの周知によって対策を考え対応している。把握していません。保護者の思いも確認しながら環境なども見直している。お便り帳は添削してもらった時間もあり時間がかかることもあるが、出来る限り早く返している。児童発達管理責任者に相談しながら対応を検討し、対応している。すぐに上司に相談しすみやかに返答している。内容によっては対応が遅くなる。	迅速な対応、わかり易い説明、不安や悩み、わからない点へ正確な情報提供など、今後も総合的な知識や技術を高めながら伴走しながら、本人がエンパワメントしていけるような支援をめざして取り組んでいきます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	44	1	コドモンの導入。HPやSNSはあまり活用できていない。職員玄関にも掲示されている。コドモンも導入された。毎月、園だよりやクラスだよりを発行している。	よりわかり易く、タイムリーな情報発信ができるか検討しながら、丁寧に正確な情報発信を取り組んでいます。効果のある発信方法も研究していきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	47	0	個人情報の紙を回収する時は、個人情報保護ファイルに入れて回収を回す。保護者が見たり、聞いたりできる範囲で個人情報を流さないように気をつけている。	個人情報の保護は、利用者一人一人の尊厳を守る上で大事なことです。職員一人一人が意識をもって取り組むよう、常に注意喚起と意識的な態度を身につけるような環境づくりに取り組んでいます。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	47	0	絵カードやメモなどで工夫しています。直接伝えることが出来ない状況の時は電話連絡やバス添乗職員から伝言により保護者へ伝わるようにしている。口語だけのやりとりではなく、その場で図や文字にして書き情報がわかるようにしている。言葉だけではなく、視覚に訴える工夫をする。	子ども本人や保護者は正確に理解できるよう、相手に合わせた配慮を常に心掛けていかわっていく。また、どんな配慮や工夫・代替えがあるかの知識や技術を高め、実践の中で有効なものを通義につなげることも意識して取り組んでいます。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	37	7	現在携わることが少なかったです。行事に、参加していただく機会を設けている。グループ活動時には行っていないが、毎日通園部では行っている。わからない。運動会や発表会にも招待すれば良いと思う。婦人部の方を招いてのみかん狩りや餅つきを行っている。地域の老人ホームや保育園と関わりはあるが、地域に開かれた施設になるためにはどのようにすると良いか、職員達と話したい。	これまで、ミカン狩りやお餅つき等地域の下端お協力を得ることができましたが、地域の方々の解散等地域の変化も感じるようになりました。法人としての取り組みに参加しているように、施設側が仕掛けながら、地域の方々とつながれる場を考えていくことが求められていく。 地域に拓かれる点については、職員全員で県とする場を創っていきます。

非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	41	3	不審者対策などはわからない。防災訓練や感染症についての勉強会などを実施。内容によっては想定した訓練までしていないので機会を設けてほしい。マニュアルがあるだけでなく、研修も行っている。行っているが実施できていない時もある。	毎月避難訓練・消火訓練、の実施、職員会議を活用して、感染症等の研修を実施している。80名近い職員全員がしっかり理解できる研修をし、周知できる取り組みを行っている。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	43	1	最低限の訓練のため子供たちがこうなったらこうするといった想定をつくってやってみるのもいいと思う。特にありません。今年度から行っているが訓練、周知は必要。月に一回の避難訓練を行っている。	BCPの策定には取り組んでいる。さまざまな災害状況を想定した体制へのバージョンアップが課題である。定着している訓練と想定外をどれだけ想定しておくかについて、検討し取り組んでいきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	45	1	てんかんや熱性けいれんに関しては、バスのマニュアルなどの作成も行っています。新学期前に全体で確認。毎日、看護職員が各部屋をまわり確認してくれている。入園前の面談での聞き取りや健康カードでのチェックをしている。利用前にアンケート等で確認している。年度初めに、記載書類を確認してもらっている。	看護師が中心となり、整備しています。事前の情報収集や、対応方法等、ひとり一人に合わせて取り組んでいます。今後も、こどもの状況を正しく把握し、正しい情報や対応方法を関係機関と共有する中で、丁寧に取り組んでいきます。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	46	1	どんな症状になるか、対処の仕方などマニュアルもあり他クラスでも把握すべきと申し伝えがある。診断書を提出してもらっている。保護者の確認のもと提供している。医師ではありませんが保護者の方の移行をきき連携しています。定期的に看護師によるアレルギー研修を行っている。アレルギーがある場合には、給食室からお盆にのった個別の物を、部屋職員が取りに行く。アレルギー研修を行い、事故のないように努めている。食事を保護者に見てもらうなど、その都度確認を行っています。一人の職員をつけている。	アレルギーの診断書・学園での食事での除去食等対応を共有し、誤って食べないように細心の注意と、食器等の色分け、配膳職員の使命など行っています。この形を継続する中で、マナーリ化しないように注意喚起しながら進めて行きます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	42	2	わかりません。十分はされていないように思う。不審者への対応も訓練している。	安全計画については、保護者・職員について周知し、計画に則り、必要な研修や訓練を進める。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	41	2	訓練に参加してもらっている。グループ内ではそこまで明確な計画等がない。家族の迎えがあるまでは預かるということを伝えている。季節ごとその都度学園便りにて案内を出している。周知できていない部分が監査で指導されたため、ガイダンスや懇談会書面での周知が必要。	全体懇談会、新年度ガイダンス等を活用し。保護者へ周知している。保護者の災害時への心配感の対応も今後取り組んでいく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	43	3	具体的に話し合う機会がない。終礼で、周知している。終礼簿などを見て状況と対応の確認をしている。職員会議で共有している。	報告書の提出、終礼等での報告周知は定着した形で進められている。職員会での共有も行われているが、対応策をより日常での支援に活かすよう、再発防止ポイント等のまとめた資料【冊子】なども視野に入れた取り組みを検討していく。どのように全体で周知できるかについても課題意識をもって取り組んでいきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	44	2	全職員が研修に参加できる形を考える必要あり。都度行っており。全ての職員が受けているわけではないのでわからない部分を明らかにしてほしい。意識するよう心掛けている。研修には出ていないが、保護者、子どもの状況で気になることがあればグループ内で確認している。現場に沿った内容の研修を今後していきたい。定期的に研修を受けている。	虐待防止については、最重要なことから受け止め実施しています。不適切な関りや、職員の誤った価値観や無意識な行動なども含め、知己的な堅守を通して、意識を高めていくことを継続して取り組んでいます。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	38	3	身体拘束を行うような場面はありません。職員間で周知している。バスでの拘束について、保護者からの同意を得て行っている。事例が少ないが、対応をマニュアル化していけると良い。保護者との参加の為、身体拘束については懸れていません。やむを得ない場合に限定している。	実際はありませんが、正しい知識と対応についての共通理解が周知できるよう、今後も定期的に継続して問い組んでいます。